

シリーズ

“キラリ企業”の現場から 第41回

会社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業の現場から”。第41回は、顧客ニーズに合わせて、レーザー、精密板金、プレス、金型加工などあらゆる金属加工を行う株式会社浜野製作所(墨田区)をご紹介します。同社には、首都圏R&D交流促進事業(注1)をご利用いただいています。

「最大の戦略は“お客様にどうやって喜んでもらえるか”。」 地域や顧客と共に成長し続ける企業

株式会社浜野製作所

工場焼失から始まるストーリー

同社の歴史は、昭和42年に現在の社長である浜野慶一氏の父親が金属金型工場を立ち上げたことから始まる。その後慶一氏は、先代の死去により30歳という若さで社長に就いたが、すぐに経理を担当していた母親も父の後を追うように他界してしまうなど不幸が重なっていった。更にバブル崩壊の不景気のなか営業をしながら技術の勉強をし、その上経理の勉強もするという苦闘の日々が続いた。そして、追い討ちをかけるような最大の試練が同社を襲う。平成12年6月、本社兼工場が近隣の火災によるもらい火により全焼したのだ。しかし燃えゆく自分の工場に呆然としながらも、浜野社長はすぐに取引先と納期調整を行い、また、近くの不動産屋に駆け込んで仮の工場を確保。翌日には仮工場を整えて製造を再開した。その後、公社の設備貸与事業(注2)や墨田区の融資制度等を利用し、新工場を本格稼働させ、この逆境を乗り越え積極的な営業展開を行っていった。このとき周りの助けを受けたことが現在の経営理念につながっている。



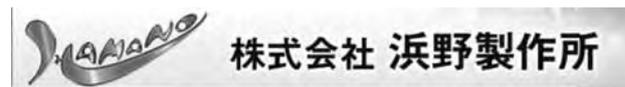
浜野慶一社長

実体験から生まれた経営理念

その同社の経営理念は、「『おもてなしの心』を常に持ってお客様・スタッフ・地域に感謝・還元し、夢(自己実現)と希望と誇りを持った活力ある企業を目指そう!」というものである。逆境を乗り越えた実体験に基づいて生まれたこの経営理念のおかげで、「皆の心のよりどころがはっきりし、会社が成長している実感が持てた。」と社長は言う。そしてその結果、取引先が飛躍的に増えるなど、事業が急成長した。

「顧客満足」「顧客第一」を掲げる企業が多い中、「製造業版ディズニーランドを目指す」と社長は語る。スタッフが誇りと責任感を持って働いていれば、お客様の喜びにつながり、それが会社の活力となり、会社も成長する、という好循環をディズニーランドに見立て、それを目指しているのである。

ちなみに写真にある同社のロゴを見て筆者は「『心』という字をイメージしているのですか?」と質問したところ、社長は「その考えはいいなあ。今日からそれでいこう!」と笑って話してくれた。



同社のロゴ

産学官連携の成果は組織風土の改革

今でこそ従業員の士気も高くなったが、従業員が数名のころは、従業員になかなか誇りや責任感が根付かず、内向きの組織風土であったと言う。就職希望者も、

アロハシャツやビーチサンダルで面接に来るなど、なかなか良い人材が集まらずに苦労した。そのような苦労をしていた平成15年頃、同社に墨田区から産学官連携の話が来た。前向きな話であり会社成長のチャンスだと思ったが、顔を合わせてみると、学生達との議論と自社の組織風土のギャップが予想以上に大きく、とても共同で製品開発などできる状況ではなかった。しかし同氏は、この機会をとらえ、社内でも特に内向きであった従業員を前面に出して、まずは学生向けに同社の会社案内をやらせ、あえて当事者として「恥をかく経験」をさせた。すると、いままで自分の仕事にしか興味のなかったこの従業員が「もう一度やらせてほしい」と言って来たのである。

浜野製作所では小さなノートを従業員に携帯させている。真っ白だったこのノートが、産学官連携を始めてから周りの情報を求めて真っ黒になるほど書き込まれるようになるなど、従業員の意識に変化が生じ、それが組織へ浸透していった。同社の産学官連携が製品の共同開発にとどまらず、組織風土をも変えていったのである。それは同社の会社案内に記載されている「浜野流産学官連携」という言葉で表されている。

また、平成20年11月には、「板金加工に係わる教育プログラムの開発・事業化」という取組みで経営革新計画の承認を受けた。従業員に「人に教える」経験をさせることで、自発的に勉強する意識を芽生えさせるというものだ。加えて、さまざまな資格取得を奨励し、従業員のさらなるレベルアップを図っている。その結果今では、ベテランから若手まで異なる年代の従業員間のコミュニケーションも盛んで、活気にあふれている。情報共有のためにITも導入。各従業員がそれぞれ認証カードを持ち、納期、機械関連の情報や社内ブログを通してさまざまな社内情報を共有している。これも社内だけではなく、社外とのコミュニケーションを活発にするのに一役買っている。例えば、取引先からいただき物をした場合、担当者しか知らないというケースが多いが、同社の場合は情報共有が進んでいるので、どの社員からもお礼が言える環境ができていたのである。こうした取組みが認められ、経済産業省主催「中小企業IT経営力大賞」でIT経営実践企業にも認定されている。

助けてもらった地域に感謝と還元を

繰り返しになるが、同社の経営理念の一つに、「地域に感謝と還元をする」とある。浜野社長は、墨田区をはじめ、東京都や商工団体の委員を数多く務めている。目を引くのは商工関連のみならず教育や環境関連の委員にも就任していることであり、地元小学校や、最近では政府の雇用対策の中で行われている就労者支援のための工場見学も受け入れている。前出の経営革新計画に

おいて社員教育をテーマにしていたことから、同氏の人材（雇用や教育）に対する熱意が感じられる。このように、自社の取引先だけではなく、地元にも感謝・還元すること



工場見学のあと小学生から送られた色紙

とで「皆さまに必要とされ、信頼される会社」を目指している同社は、墨田区より優良工場として「フレッシュゆめ工場」(注3)モデル工場の認証を受けた。その後ISO14001やISO9001も認証取得するなど、地域社会との共存共栄や顧客満足の向上を目指した活動も行っている。さらに、地元信用金庫が主催する経営者交流会においては、会長として主体的立場で参加し積極的に活動しているなど、まさに経営理念を実践している。このような活動が本業の成長を支えているのだろう。

これからの浜野製作所

最後になるが、これからの浜野製作所について尋ねたところ、「まずは、これまで通り従業員が安定して生活できる環境を整え続けること。」とのことである。これまでの取材を通して人を大切にする姿勢がうかがわれた。

そして次に、「『東京』にこだわったものづくりを続けたい。」とも話してくれた。東京には、企業や大学などをおしてさまざまな情報が集積している。東京の持つ資源を活かして「大学の研究開発と顧客をつなげる新しい職人さんとして役割を果たしていきたい。」とのことであった。

浜野社長は、自社にだけ目を向けることなく、広い視野で東京全体のものづくりを見つめている。

総合支援課 鈴木哲也

(注1) 首都圏R&D交流促進事業:グローバルに展開するメーカーの研究開発部門との継続的な取引を目指してセミナーや工場訪問などを支援するもの。

(注2) 設備貸与事業:現在、この事業は休止中です。同等の事業として、現在公社では「設備リース事業」を実施しています。

(注3) フレッシュゆめ工場:魅力的で働きがいのある職場づくりを行い、他の模範となる企業について墨田区が認定するもの。

企業名:株式会社浜野製作所

代表取締役:浜野 慶一

資本金:1,000万円

従業員数:24名

本社所在地:東京都墨田区八広4-39-7

TEL :03-5631-9111

URL :http://www.hamano-products.co.jp/